

## ⑭監事講評

監事 吉田 光徳

菊田理事長をはじめメンバーの皆様、一年間大変お疲れ様でした。

本年は、コロナの影響もあり念頭に建てた活動・運動を実現するのが難しい年だったと思います。例年であれば、事業・活動へ邁進して行ったのが本年は、日に日に変化するコロナ情勢の中で、様々な「決断」を試される年でした。理事長・委員長の「決断」する役職者は、今までに無い気苦労があったと感じます。ですがその中でも、もとみや青年会議所は、正副理事会や事業等を率先して開催している姿は素晴らしい一言でした。有事の際に率先して活動・運動を行う事団体こそが、地域に必要とされる団体だと私は考えております。本当に、皆様一年間お疲れ様でした。

来年は35周年という節目の年になります。LOM運営・メンバーの団結力がためられる年度となるかと思えます。今回、テレビ会議や通常の会議等様々な経験をつんだと思います。その経験を活かし、石橋理事長をメンバー一丸となって支えていく事が出来れば、人数が少なくとも素晴らしい周年事業・周年式典が出来ると信じております。是非、本年度の反省点やテレビ会議の課題等も踏まえながら来年につなげてください。

次年度よりも、素晴らしい事業を、地域の明るい豊かな社会の実現の為、展開していきましょう。一年間ありがとうございました。

監事 國分 久徳

本年、菊田理事長が掲げた「感謝と誇りを持って未来を紡ごう 大人として地域人として日本人として」のスローガンの基、様々な運動、活動を展開されました。

新春の集い以降、新型コロナウイルスの感染拡大や政府発出による緊急事態宣言など、年間計画の変更を余儀なくされました。我々の会議・事業の在り方・地域を真剣に考え、明確な目的を持つことにより多くの地域住民に力強く発信することができないのでしょうか。

会議は、Webを介して、理事会は対面にてと、新しい生活スタイルを少しずつ取り入れ粛々と会議を重ねた一年でありました。

幾多の困難があっても、その時代を切り開くのは青年でなければなりません。苦渋の決断の中、活動をされてこられたメンバーに感謝と敬意を表し監事報告とさせていただきます。